



モーニング共催セミナー

無痛分娩に適した ディスポーザブルPCA用装置 はじめました

日時 | 令和元年11月24日(日)
9:00~9:45

会場 | 昭和大学 上條記念館 第3会場(富士桜A)

座長 | 高木 俊一 先生(日本大学麻酔科学系麻酔科学分野)

演者 | 出原 郁 先生(あおばウィメンズホスピタル 麻酔科)

定員
先着 200名
軽食を
ご用意致します。

“楽々フューザー”は、バルーン式ディスポーザブルPCA用装置(以下、バルーンポンプ)です。

持続注入流速は1時間あたりOFF・1・5・10mlから選択、PCAは5mlでロックアウトタイム15分です。あおばウィメンズホスピタルでは、無痛分娩は硬膜外バルーンポンプ2連式で対応していましたが、今回そのうち1台を楽々フューザーに置き換えて実施したので報告します。

バルーンポンプは、①初期導入費用が安価②操作が単純で初期教育・研修が簡単③機械的な誤作動が少ない④台数増加に対応しやすいなどが利点です。しかしながら①機械式に比べ誤差が大きい②設定方法は限られ細かく対応できない③投与記録が残らない④アラーム機能がないなどの欠点もあります。

当院ではこのような利点・欠点を熟知した上で、麻酔薬投与を妊婦本人とも相談の上、決められた範囲内で選択するという手法をとっています。無痛分娩(当院は所謂「和痛」分娩)では、学問的な安全性・確実性は勿論ですが、妊婦本人の満足度も重要と考え、投与量決定に参加してもらう事で充足感が得られるよう考えました。また、バルーンポンプを2台併用し、フェンタニルを含むもの、含まないものを用意しています。フェンタニルは有用な薬剤ですが副作用も強く、掻痒感、目眩、悪心嘔吐などで麻酔薬投与中止となるのを回避するためです。

2015年の本学会で、バルーンポンプ2台による無痛分娩と、自然分娩とを比較して、嘔気の率に変わりがない事を報告しました。今回、1台を楽々フューザーに置き換えて実施したので、嘔気を中心に、スタッフの使用感なども交えて報告いたします。